

富山県内の中小企業動向調査

ファーストTrend

2022年7月号

中小企業動向調査（2022年6月末日基準）

この調査は、富山県内企業344社からのアンケート結果をまとめたものです。
 企業の調査資料として、2022年4月～6月の実績、2022年7月～9月の見込み、2022年10月～12月の先行き見通しを集約した概要です。なお、季節調整は行っていません。

回答企業数（調査企業数）
344（653）
うち、製造業57社、非製造業287社

調査時期：2022年7月上旬

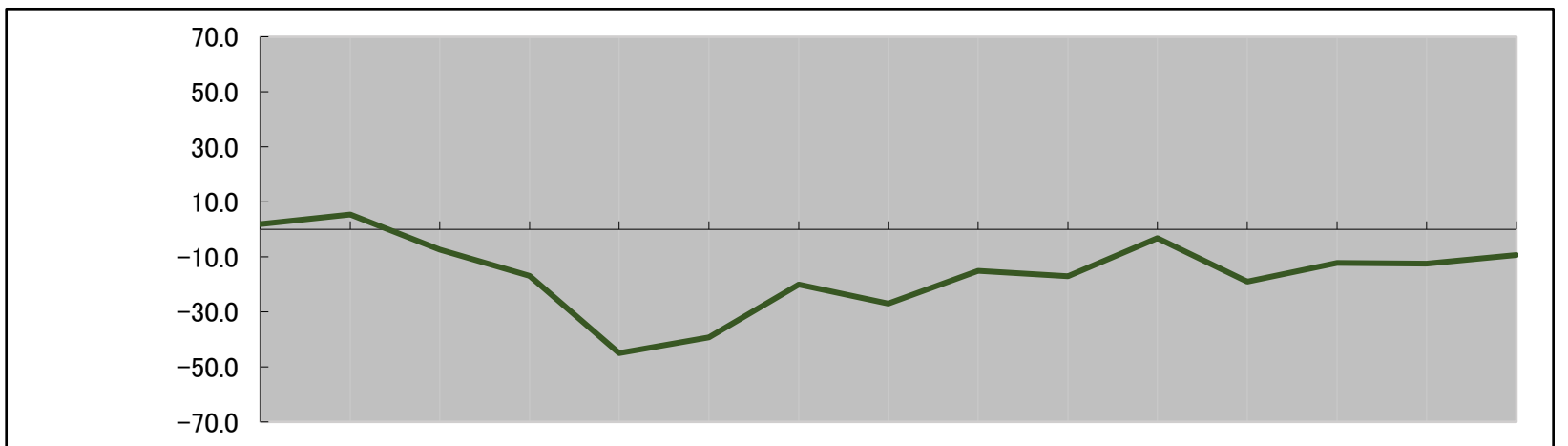
方法：インターネットによる当行取引先へのアンケート実施

日本銀行富山事務所が2022年7月に公表した「富山県金融経済クォーターリー2022年夏」によると、「富山県の景気は、基調として持ち直しつつある～（抜粋）個人消費は引続き持ち直しの動きがみられている。当地製造業の生産は、持ち直しの動きが一服している。業種別にみると、汎用・生産用・業務用機械は増勢が鈍化している。電気機械は、足踏み状態となっている。医薬品を中心とする化学は、横ばい圏内の動きとなっている。金属製品は、持ち直しの動きが見られている」とあります。今回実施したアンケートにおいては、企業動向は、製造業、非製造業とも悪化傾向が続いています。原材料高による仕入れへの影響や利益への影響などの不透明感もあり、2022年7月以降の予想についても悪化傾向が続く見通しとなっています。

I. 企業業況

企業業況の推移……（全産業）

		（％）												見込	予測	
		2019			2020			2021			2022					
種別	期別	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
	良	い	21.3	22.7	14.8	15.0	9.1	11.8	16.8	14.1	17.3	15.4	22.0	17.4	17.2	12.2
普通		59.2	59.9	63.1	53.1	36.8	37.1	46.4	44.8	50.4	52.1	52.8	46.2	53.5	63.1	69.2
悪	い	19.4	17.4	22.1	31.9	54.1	51.1	36.8	41.1	32.4	32.5	25.2	36.4	29.4	24.7	20.1
D . I .		1.9	5.4	-7.4	-16.9	-45.0	-39.2	-20.0	-27.0	-15.1	-17.1	-3.2	-19.0	-12.2	-12.5	-9.3



- (1) 富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い-悪い」は、今回調査の4-6月期ではマイナス12.2となり、前回より6.8ポイント改善しました。先行きについては、7-9月はマイナス12.5とほぼ横ばいであり、10-12月の見通しはやや改善する予測です。

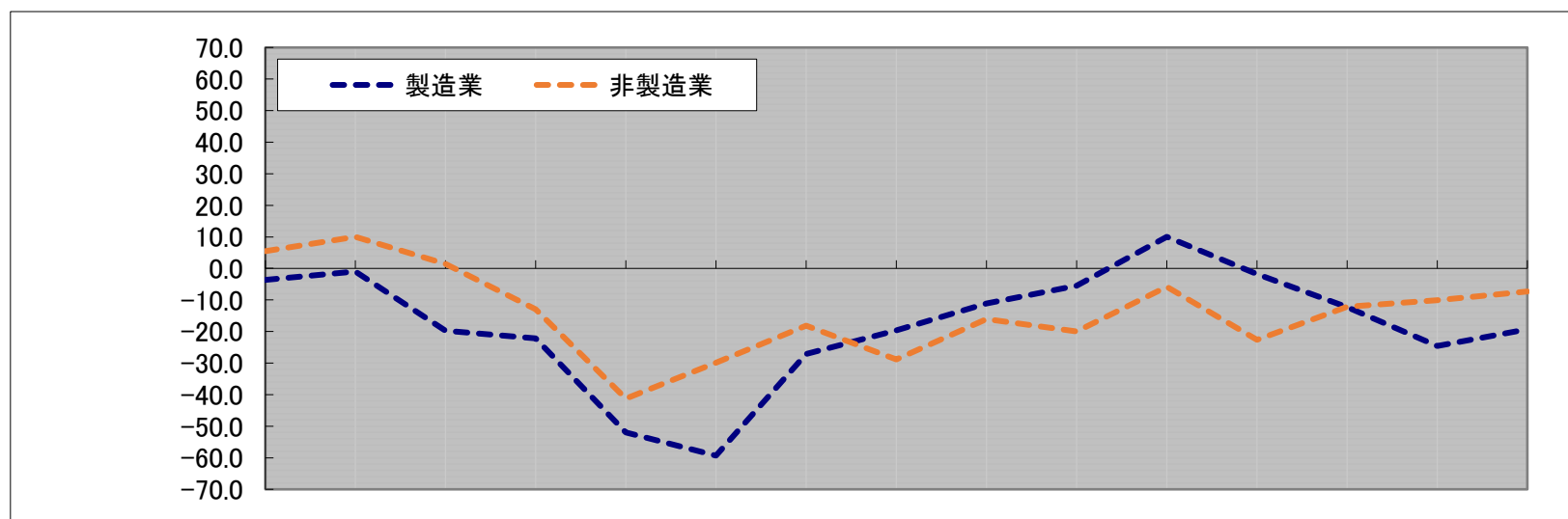
I. 企業業況（続き）

企業業況の推移……（うち製造業のみ）

		（%）												見込	予測			
		2019			2020			2021				2022						
		4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月		
良	い	21.4	22.5	11.9	13.9	7.8	8.5	20.3	17.6	20.4	23.6	36.7	30.9	24.6	12.3	14.0		
普	通	53.6	53.9	56.4	50.0	32.5	23.7	32.2	45.1	48.1	47.3	36.7	36.4	38.6	50.9	52.6		
悪	い	25.0	23.5	31.7	36.1	59.7	67.8	47.5	37.3	31.5	29.1	26.7	32.7	36.8	36.8	33.3		
D . I .		-3.6	-1.0	-19.8	-22.2	-51.9	-59.3	-27.1	-19.6	-11.1	-5.5	10.0	-1.8	-12.3	-24.6	-19.3		

企業業況の推移……（うち非製造業のみ）

		（%）												見込	予測			
		2019			2020			2021				2022						
		4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月		
良	い	21.3	22.9	16.8	15.8	9.8	13.4	15.8	13.2	16.5	13.3	19.2	14.6	15.7	12.2	10.1		
普	通	63.0	64.3	67.8	55.5	39.2	43.3	50.2	44.7	50.9	53.3	55.9	48.3	56.4	65.5	72.5		
悪	い	15.7	12.9	15.4	28.8	51.0	43.3	33.9	42.1	32.6	33.3	24.9	37.2	27.9	22.3	17.4		
D . I .		5.5	10.0	1.4	-13.0	-41.3	-29.9	-18.1	-28.9	-16.1	-20.0	-5.8	-22.6	-12.2	-10.1	-7.3		



- (2) 製造業と非製造業に分けてみると、製造業は業況判断指数D. I. は マイナス12.3と前回より10.5ポイント悪化しました。非製造業ではマイナス12.2と前回より10.4ポイント改善しました。ウクライナ情勢、原材料高、オミクロン株の流行を背景に製造業では2022年7月以降も悪化傾向が続きそうです。

II. 売上高状況

売上高状況の推移……（全産業）

(%)

見込 予測

	2019			2020			2021			2022			見込	予測	
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月			4～6月
増加	25.6	25.8	18.6	15.3	10.0	14.0	20.0	17.7	24.6	20.0	28.4	16.8	27.6	18.3	16.3
横ばい	52.1	56.7	52.5	49.4	29.5	29.0	36.8	38.7	46.0	47.5	45.3	49.1	47.7	59.9	66.3
減少	22.3	17.5	28.9	35.3	60.5	57.0	43.2	43.5	29.4	32.5	26.3	34.2	24.7	21.8	17.4
D . I .	3.3	8.3	-10.3	-20.0	-50.5	-43.0	-23.2	-25.8	-4.8	-12.5	2.1	-17.4	2.9	-3.5	-1.2

売上高状況の推移……（うち製造業のみ）

(%)

見込 予測

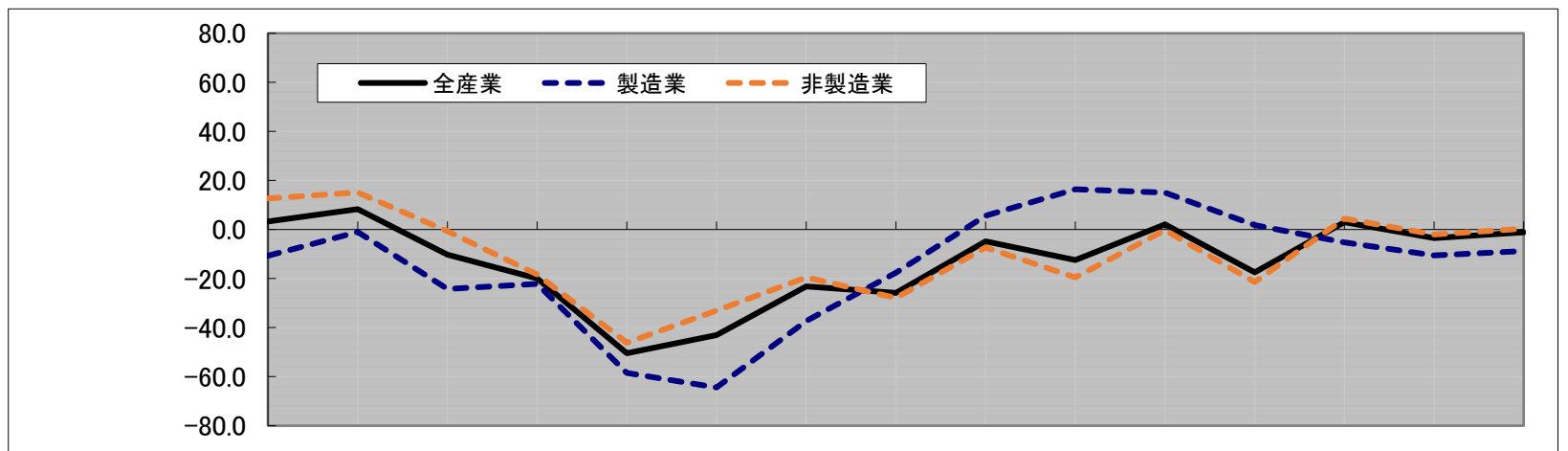
	2019			2020			2021			2022			見込	予測	
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月			4～6月
増加	21.4	22.8	16.2	16.7	7.8	5.1	15.3	23.5	29.6	30.9	40.0	27.3	24.6	12.3	12.3
横ばい	46.4	53.5	43.4	44.4	26.0	25.4	32.2	35.3	46.3	54.5	35.0	47.3	45.6	64.9	66.7
減少	32.1	23.8	40.4	38.9	66.2	69.5	52.5	41.2	24.1	14.5	25.0	25.5	29.8	22.8	21.1
D . I .	-10.7	-1.0	-24.2	-22.2	-58.4	-64.4	-37.3	-17.6	5.6	16.4	15.0	1.8	-5.3	-10.5	-8.8

売上高状況の推移……（うち非製造業のみ）

(%)

見込 予測

	2019			2020			2021			2022			見込	予測	
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月			4～6月
増加	28.3	28.1	20.3	14.3	11.2	18.1	21.3	16.2	23.4	17.3	26.2	14.6	28.2	19.5	17.1
横ばい	55.9	59.0	58.7	53.1	31.5	30.7	38.0	39.6	45.9	45.8	47.3	49.4	48.1	58.9	66.2
減少	15.7	12.9	21.0	32.7	57.3	51.2	40.7	44.2	30.7	36.9	26.5	36.0	23.7	21.6	16.7
D . I .	12.6	15.1	-0.7	-18.4	-46.2	-33.1	-19.5	-27.9	-7.3	-19.6	-0.3	-21.5	4.5	-2.1	0.3



- (1) 売上高D. I. は全産業ではプラス2.9となり、前回より20.3ポイント改善しました。製造業と非製造業に分けてみると、製造業ではマイナス5.3となり、前回比で7.1ポイント悪化しました。非製造業でもプラス4.5となり、前回比で26ポイントと大幅に改善しました。先行きについては、全産業において7-9月にマイナス3.5と悪化予想です。

Ⅲ. 製品在庫水準

製品在庫水準の推移……（全産業）

(%)

見込 予測

	2019			2020			2021			2022					
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
不足	2.6	3.5	2.8	3.1	9.1	7.5	7.9	8.5	10.3	12.1	12.3	13.3	13.1	13.7	12.5
適正	89.7	90.7	88.1	88.1	80.9	81.2	86.1	84.3	83.5	82.1	84.2	82.0	82.3	82.6	84.9
過剰	7.7	5.7	9.2	8.8	10.0	11.3	6.1	7.3	6.3	5.7	3.5	4.7	4.7	3.8	2.6
D . I .	-5.1	-2.2	-6.4	-5.8	-0.9	-3.8	1.8	1.2	4.0	6.4	8.8	8.5	8.4	9.9	9.9

製品在庫水準の推移……（うち製造業のみ）

(%)

見込 予測

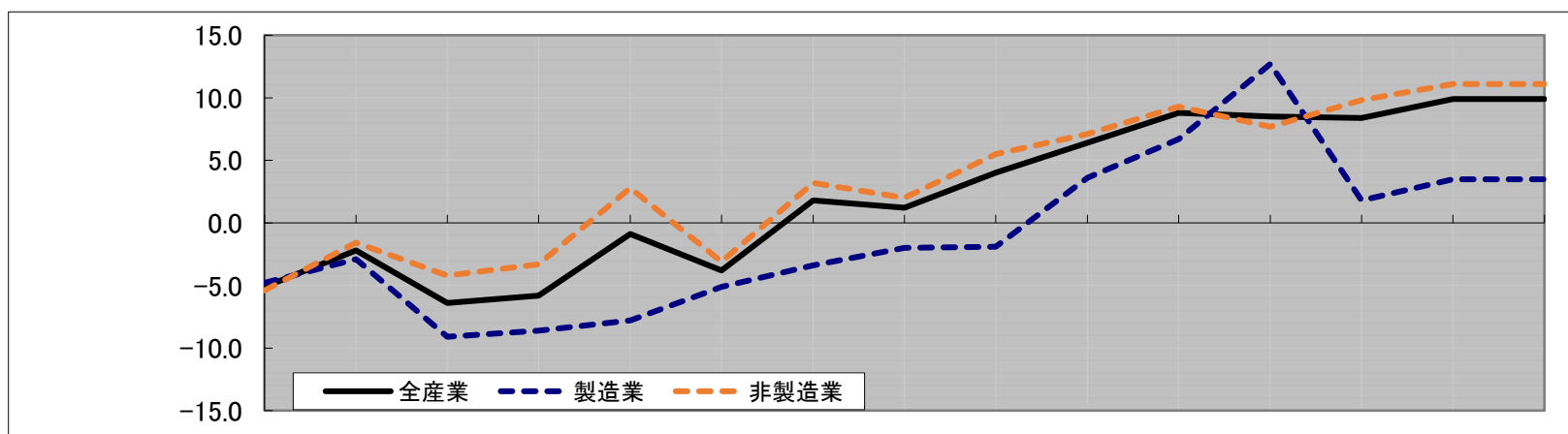
	2019			2020			2021			2022					
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
不足	3.6	4.9	3.0	1.9	5.2	5.1	5.1	7.8	7.4	12.7	10.0	16.4	10.5	10.5	8.8
適正	88.1	87.3	84.8	87.6	81.8	84.7	86.4	82.4	83.3	78.2	86.7	80.0	80.7	82.5	86.0
過剰	8.3	7.8	12.1	10.5	13.0	10.2	8.5	9.8	9.3	9.1	3.3	3.6	8.8	7.0	5.3
D . I .	-4.8	-2.9	-9.1	-8.6	-7.8	-5.1	-3.4	-2.0	-1.9	3.6	6.7	12.7	1.8	3.5	3.5

製品在庫水準の推移……（うち非製造業のみ）

(%)

見込 予測

	2019			2020			2021			2022					
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
不足	1.8	2.4	2.5	4.1	11.2	8.7	8.6	8.6	11.0	12.0	12.8	12.6	13.6	14.3	13.2
適正	91.0	93.6	90.8	88.4	80.4	79.5	86.0	84.8	83.5	83.1	83.7	82.4	82.6	82.6	84.7
過剰	7.2	4.0	6.7	7.4	8.4	11.8	5.4	6.6	5.5	4.9	3.5	5.0	3.8	3.1	2.1
D . I .	-5.4	-1.6	-4.2	-3.3	2.8	-3.1	3.2	2.0	5.5	7.1	9.3	7.7	9.8	11.1	11.1



- (1) 4-6月の製品在庫水準D. I. はプラス8.4と在庫不足の状況が続いています。2020年10-12月より上昇傾向が続いており、在庫不足の状況は拡大しています。製造業はプラス1.8と前回より10.9ポイント下降しました。非製造業はプラス9.8と前回より2.1ポイント上昇しました。

IV. 資金繰状況

資金繰状況の推移……（全産業）

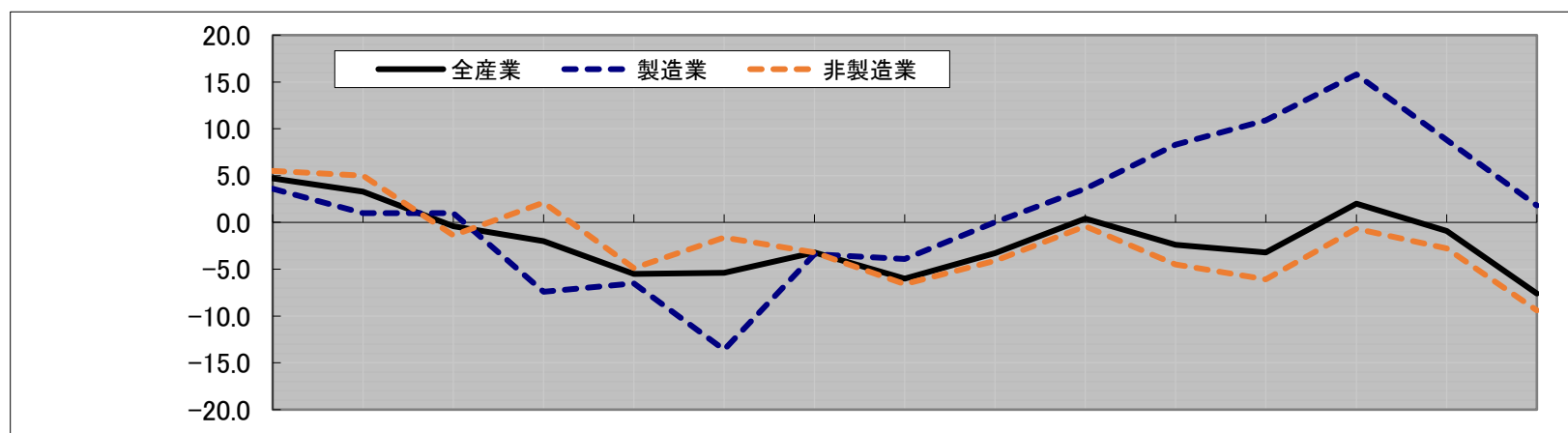
	2019												2020			2021			2022			見込	予測
	4～6月			7～9月			10～12月			1～3月			4～6月			7～9月			10～12月				
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月				
ゆるい	13.3	10.7	11.5	8.3	14.1	15.1	13.2	13.3	14.0	16.8	13.4	15.8	16.9	15.7	12.8								
普通	78.2	81.8	76.6	81.5	66.4	64.5	70.4	67.3	68.8	66.8	70.8	65.2	68.3	67.7	66.9								
厳しい	8.5	7.4	11.9	10.2	19.5	20.4	16.4	19.4	17.3	16.4	15.8	19.0	14.8	16.6	20.3								
D . I .	4.7	3.3	-0.4	-2.0	-5.5	-5.4	-3.2	-6.0	-3.3	0.4	-2.4	-3.2	2.0	-0.9	-7.6								

資金繰状況の推移……（うち製造業のみ）

	2019												2020			2021			2022			見込	予測
	4～6月			7～9月			10～12月			1～3月			4～6月			7～9月			10～12月				
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月				
ゆるい	13.1	11.8	13.9	7.4	15.6	6.8	15.3	11.8	14.8	18.2	20.0	21.8	21.1	19.3	17.5								
普通	77.4	77.5	73.3	77.8	62.3	72.9	66.1	72.5	70.4	67.3	68.3	67.3	73.7	70.2	66.7								
厳しい	9.5	10.8	12.9	14.8	22.1	20.3	18.6	15.7	14.8	14.5	11.7	10.9	5.3	10.5	15.8								
D . I .	3.6	1.0	1.0	-7.4	-6.5	-13.6	-3.4	-3.9	0.0	3.6	8.3	10.9	15.8	8.8	1.8								

資金繰状況の推移……（うち非製造業のみ）

	2019												2020			2021			2022			見込	予測
	4～6月			7～9月			10～12月			1～3月			4～6月			7～9月			10～12月				
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月				
ゆるい	13.4	10.0	9.8	8.9	13.3	18.9	12.7	13.7	13.8	16.4	12.1	14.6	16.0	15.0	11.8								
普通	78.7	85.0	79.0	84.2	68.5	60.6	71.5	66.0	68.3	66.7	71.2	64.8	67.2	67.2	66.9								
厳しい	7.9	5.0	11.2	6.8	18.2	20.5	15.8	20.3	17.9	16.9	16.6	20.7	16.7	17.8	21.3								
D . I .	5.5	5.0	-1.4	2.1	-4.9	-1.6	-3.2	-6.6	-4.1	-0.4	-4.5	-6.1	-0.7	-2.8	-9.4								



- (1) 4-6月の資金繰り状況D. I. は全産業で5.2ポイント改善しています。製造業は4.9ポイント改善の15.8と1年以上に亘り改善基調が続いています。非製造業も5.4ポイント改善のマイナス0.7と、マイナス域は脱していませんが改善基調が続いています。7-9月、10-12月の資金繰り状況の見通しは全産業で悪化が継続する予想となっています。非製造業が引き続きマイナス域を脱せず悪化に転じるのに加えて、改善基調を維持してきた製造業が現在をピークとして7-9月から悪化に転じる予想となっています。

V. 利益状況

利益状況の推移……（全産業）

(%)

見込 予測

	2019			2020			2021			2022					
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
黒字	50.5	48.3	45.9	43.1	33.6	33.9	44.6	31.5	34.2	38.6	42.9	36.7	34.6	33.7	33.1
収支トントン	32.9	37.2	40.1	32.8	28.6	31.7	27.9	33.1	34.9	31.4	33.2	29.4	41.6	48.0	50.6
償却後赤字	16.7	14.5	14.0	24.1	37.7	34.4	27.5	35.5	30.9	30.0	23.9	33.9	23.8	18.3	16.3
D . I .	33.8	33.9	31.8	19.0	-4.1	-0.5	17.1	-4.0	3.3	8.6	19.0	2.8	10.8	15.4	16.9

利益状況の推移……（うち製造業のみ）

(%)

見込 予測

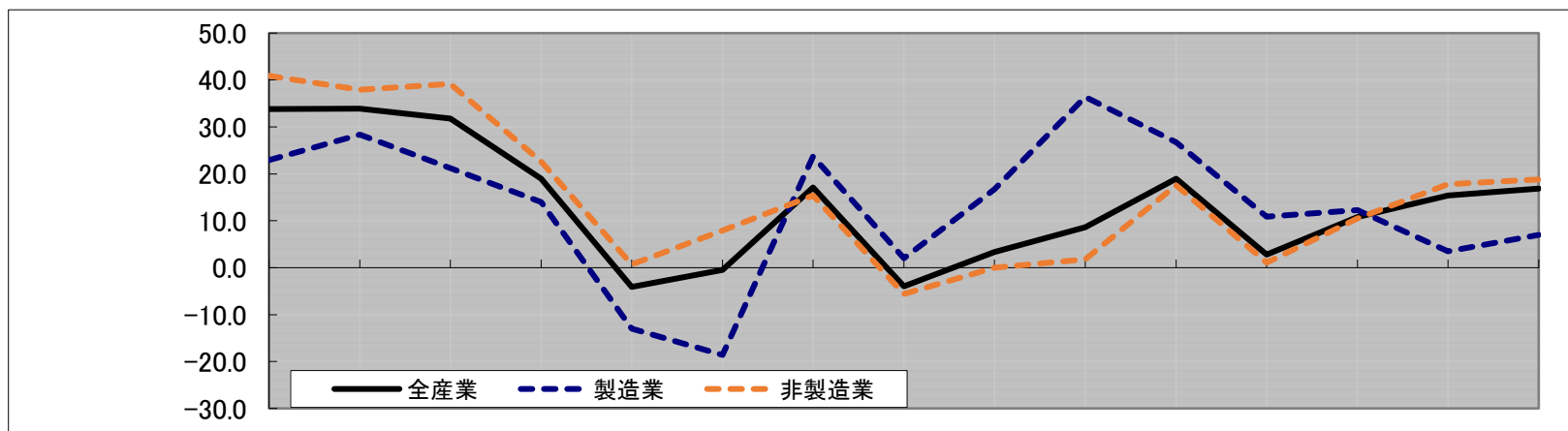
	2019			2020			2021			2022					
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
黒字	44.6	46.1	38.4	44.9	32.5	25.4	54.2	39.2	42.6	54.5	55.0	41.8	38.6	26.3	29.8
収支トントン	33.7	36.3	44.4	24.3	22.1	30.5	15.3	23.5	31.5	27.3	16.7	27.3	35.1	50.9	47.4
償却後赤字	21.7	17.6	17.2	30.8	45.5	44.1	30.5	37.3	25.9	18.2	28.3	30.9	26.3	22.8	22.8
D . I .	22.9	28.4	21.2	14.0	-13.0	-18.6	23.7	2.0	16.7	36.4	26.7	10.9	12.3	3.5	7.0

利益状況の推移……（うち非製造業のみ）

(%)

見込 予測

	2019			2020			2021			2022					
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月
黒字	54.3	50.0	51.0	41.8	34.3	37.8	42.1	29.4	32.1	34.7	40.6	35.6	33.8	35.2	33.8
収支トントン	32.3	37.9	37.1	39.0	32.2	32.3	31.2	35.5	35.8	32.4	36.4	29.9	42.9	47.4	51.2
償却後赤字	13.4	12.1	11.9	19.2	33.6	29.9	26.7	35.0	32.1	32.9	23.0	34.5	23.3	17.4	15.0
D . I .	40.9	37.9	39.2	22.6	0.7	7.9	15.4	-5.6	0.0	1.8	17.6	1.1	10.5	17.8	18.8

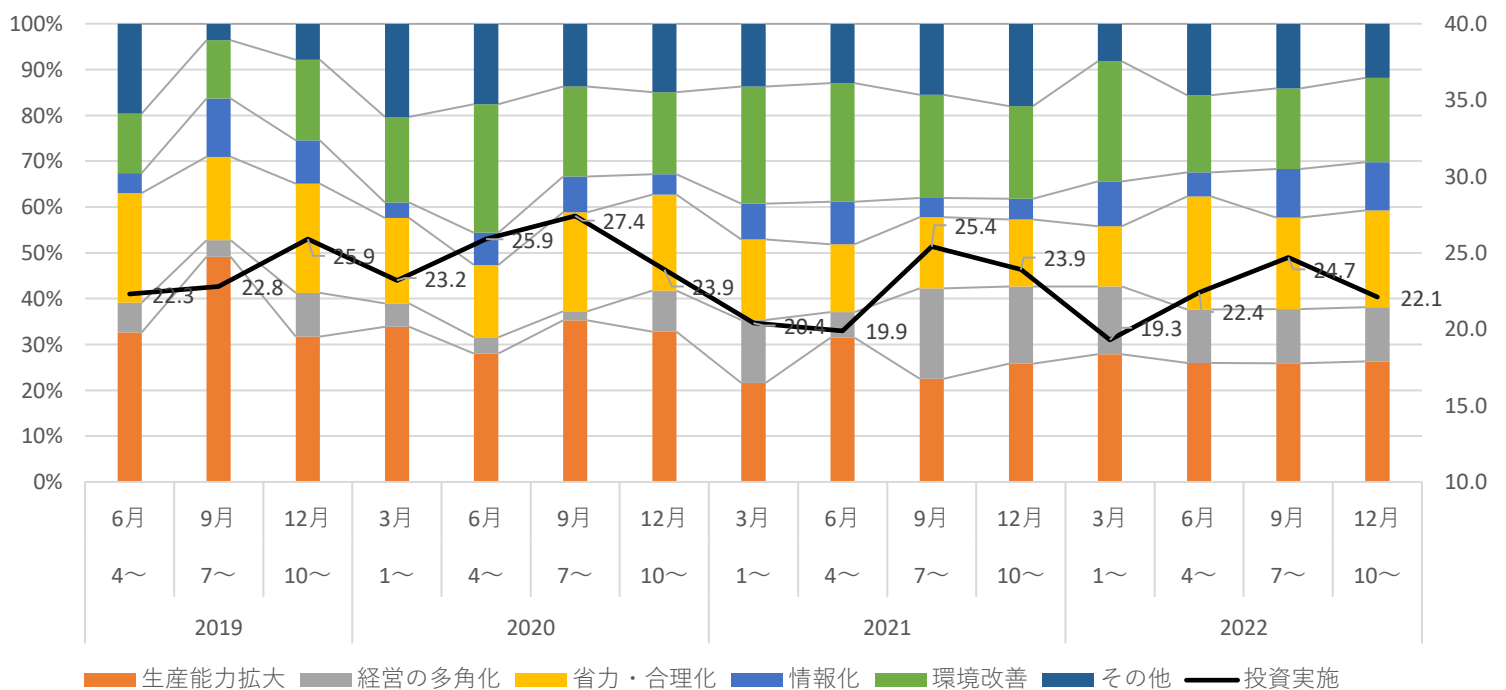


- (1) 4-6月の全産業の利益状況D. I. は前回比8ポイントの改善となっています。内訳をみると、製造業は1.4ポイント、非製造業は9.4ポイントの改善となっています。非製造業の改善幅が大きくなっています。7-9月、10-12月の全産業の利益状況D. I. は改善見通しとなっています。このうち非製造業は引き続きの改善見通しですが、製造業は7-9月に悪化に転じて10-12月に再び持ち直す予想となっています。

Ⅶ. 設備投資動向

	2019												2020				2021				2022				見込	予測							
	4～6月			7～9月			10～12月			1～3月			4～6月			7～9月			10～12月			1～3月			4～6月			7～9月			10～12月		
	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	
投資実施	22.3	22.8	25.9	23.2	25.9	27.4	23.9	20.4	19.9	25.4	23.9	19.3	22.4	24.7	22.1																		
投資せず	77.7	77.2	74.1	76.8	74.1	72.6	76.1	79.4	80.1	74.6	76.1	80.7	77.6	75.3	77.9																		

	2019												2020				2021				2022				見込	予測							
	4～6月			7～9月			10～12月			1～3月			4～6月			7～9月			10～12月			1～3月			4～6月			7～9月			10～12月		
	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	2019	2020	2021	2022	
生産能力拡大	32.6	49.1	31.7	33.9	28.1	35.3	32.8	21.6	31.5	22.5	25.8	27.9	26.0	25.9	26.3																		
経営の多角化	6.5	3.6	9.5	5.1	3.5	2.0	9.0	13.7	5.6	19.7	16.8	14.8	11.7	11.8	11.8																		
省力・合理化	23.9	18.2	23.8	18.6	15.8	21.6	20.9	17.6	14.8	15.5	14.6	13.1	24.7	20.0	21.1																		
情報化	4.3	12.7	9.5	3.4	7.0	7.8	4.5	7.8	9.3	4.2	4.5	9.8	5.2	10.6	10.5																		
環境改善	13.0	12.7	17.5	18.6	28.1	19.6	17.9	25.5	25.9	22.5	20.2	26.2	16.9	17.6	18.4																		
その他	19.6	3.6	7.9	20.3	17.5	13.7	14.9	13.7	13.0	15.5	17.9	8.2	15.6	14.1	11.8																		

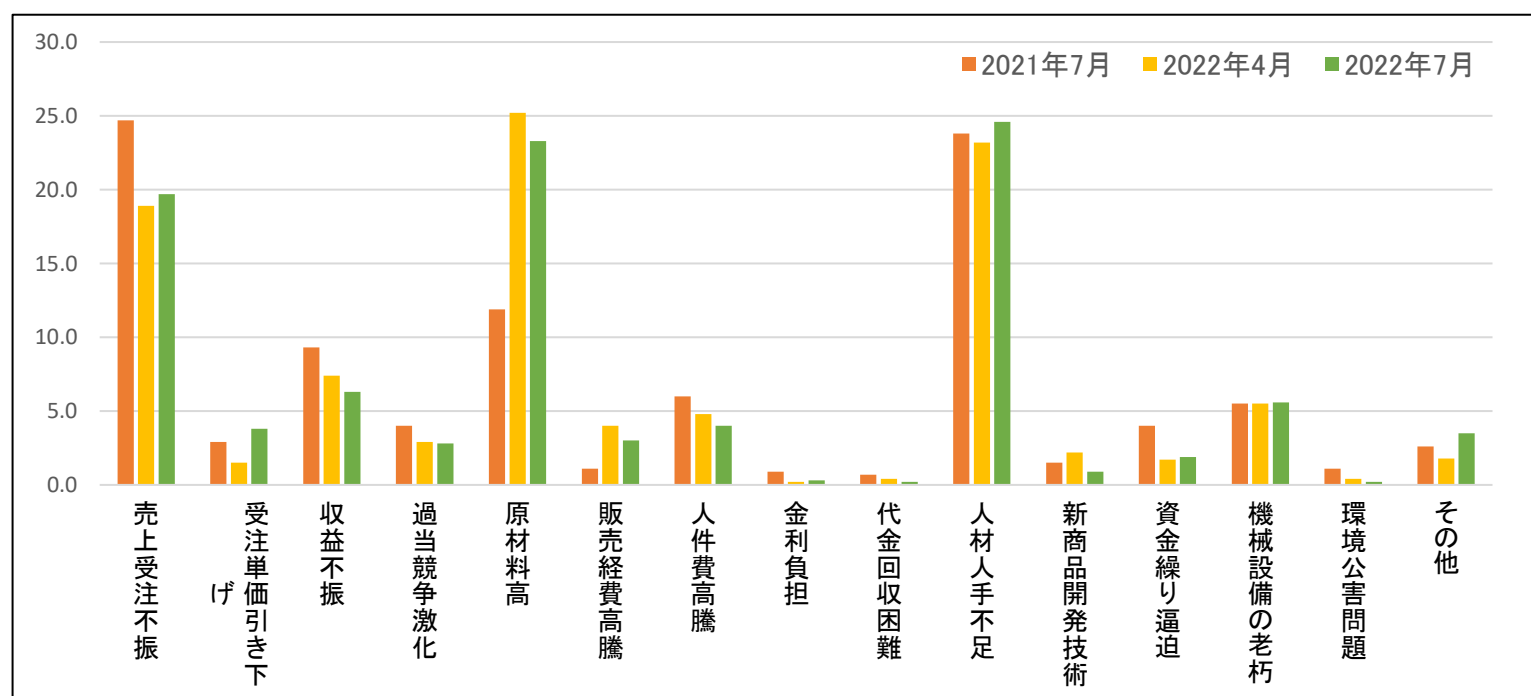


- (1) 設備投資を実施した企業は22.4となり、前回比3.1ポイント改善しています。設備投資を実施した目的については、「生産能力拡大」が26.0%、次いで「省力・合理化」が24.7%と高くなっており6四半期振りに20%を上回っています。2021年以降20%を上回って推移した「環境改善」については16.9%と9.3ポイントのマイナスとなっています。

VII. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	2021年7月 (前年同月)	2022年4月 (前回)	2022年7月 (今回)		前回比増減	
			(うち製造業)	(うち非製造業)		
売上受注不振	24.7	18.9	19.7	(18.4)	(20.0)	0.8
受注単価引き下げ	2.9	1.5	3.8	(4.9)	(3.6)	2.3
収益不振	9.3	7.4	6.3	(11.7)	(5.1)	-1.1
過当競争激化	4.0	2.9	2.8	(1.9)	(3.0)	-0.1
原材料高	11.9	25.2	23.3	(28.2)	(22.3)	-1.9
販売経費高騰	1.1	4.0	3.0	(1.0)	(3.4)	-1.0
人件費高騰	6.0	4.8	4.0	(3.9)	(4.0)	-0.8
金利負担	0.9	0.2	0.3	(1.0)	(0.2)	0.1
代金回収困難	0.7	0.4	0.2	(0.0)	(0.2)	-0.2
人材人手不足	23.8	23.2	24.6	(16.5)	(26.3)	1.4
新商品開発技術	1.5	2.2	0.9	(2.9)	(0.4)	-1.3
資金繰り逼迫	4.0	1.7	1.9	(1.0)	(2.1)	0.2
機械設備の老朽	5.5	5.5	5.6	(6.8)	(5.3)	0.1
環境公害問題	1.1	0.4	0.2	(0.0)	(0.2)	-0.2
その他	2.6	1.8	3.5	(1.9)	(3.8)	1.7



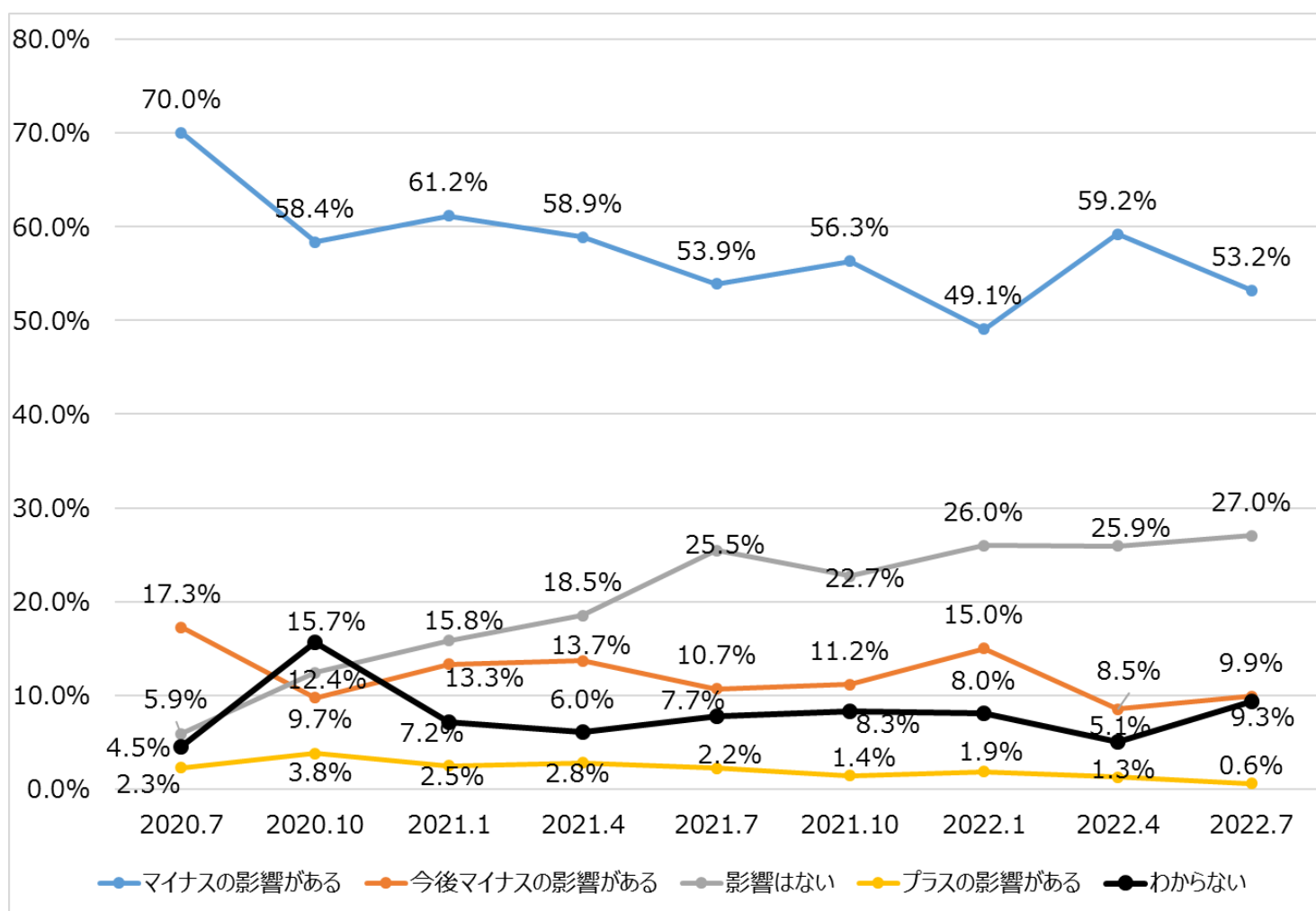
- (1) 当面の経営上の問題点として「人材人手不足」が最も多くなっており、24.6%となっています。対前年比ではプラス0.8ポイント、対前回比ではプラス1.4ポイントと影響がやや拡大しています。
- (2) 次いで多い「原材料高」については、23.3%で、対前回比マイナス1.9%となっているものの依然高い水準にあります。「売上受注不振」については19.7%で、前回比プラス0.8ポイントで推移しています。

富山県内の中小企業に与える新型コロナウイルスの影響と原材料・仕入価格等について

回答企業数	344社(うち、製造業57社、非製造業287社)
調査企業数	653社
調査時期	2022年7月上旬
調査方法	インターネットによる当行取引先へのアンケート実施(中小企業動向調査と同時に実施)

新型コロナウイルスによる影響

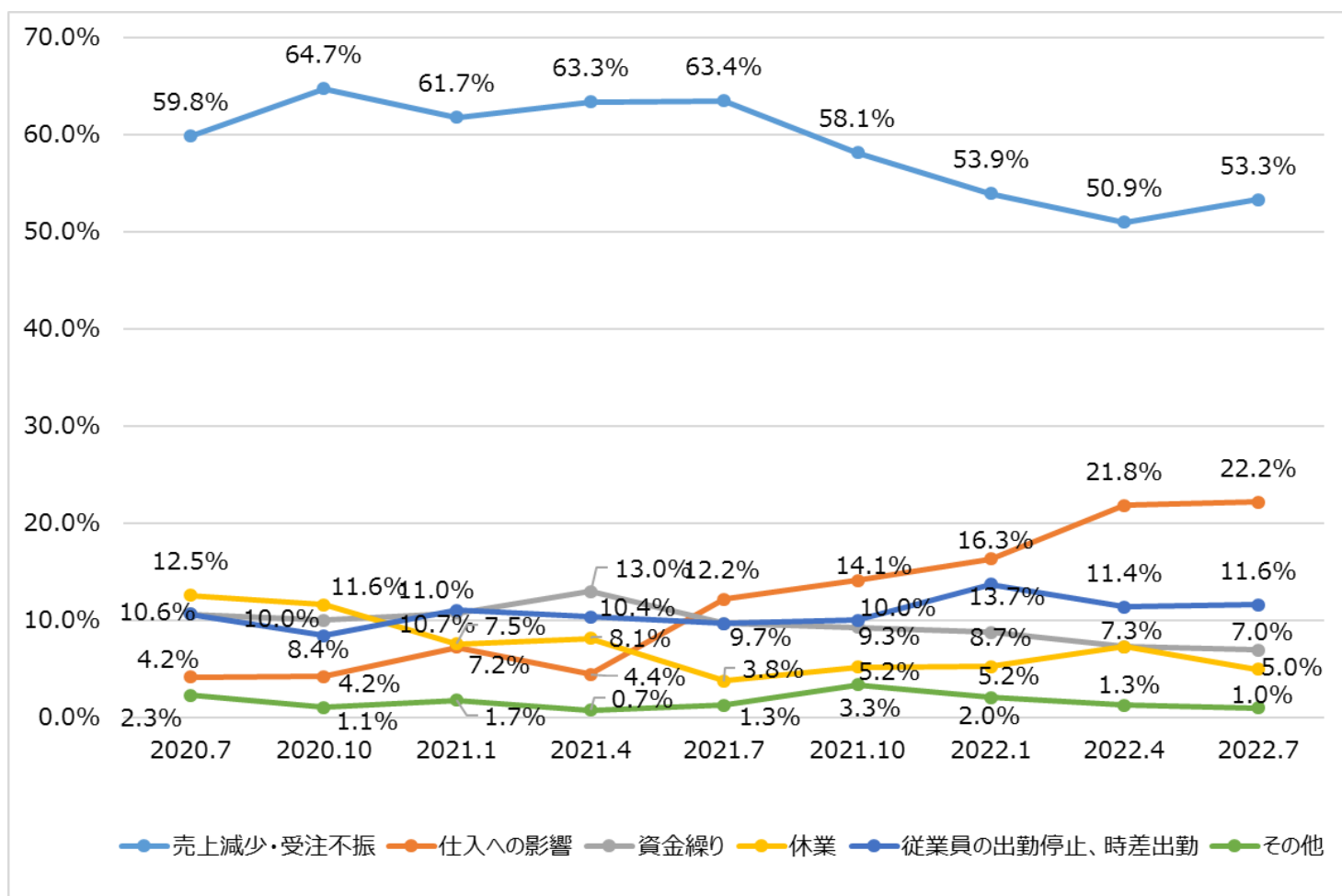
設問：新型コロナウイルスによる業績への影響はどうか



・「マイナスの影響がある」と答えた企業の比率は増減を繰り返していますが、今回調査では6ポイントの減少となっています。しかし「マイナスの影響がある」企業が依然として最も大きな比率を占め、過半数が影響があるとしています。

設問： 具体的にはどのような影響がありますか(複数回答可)

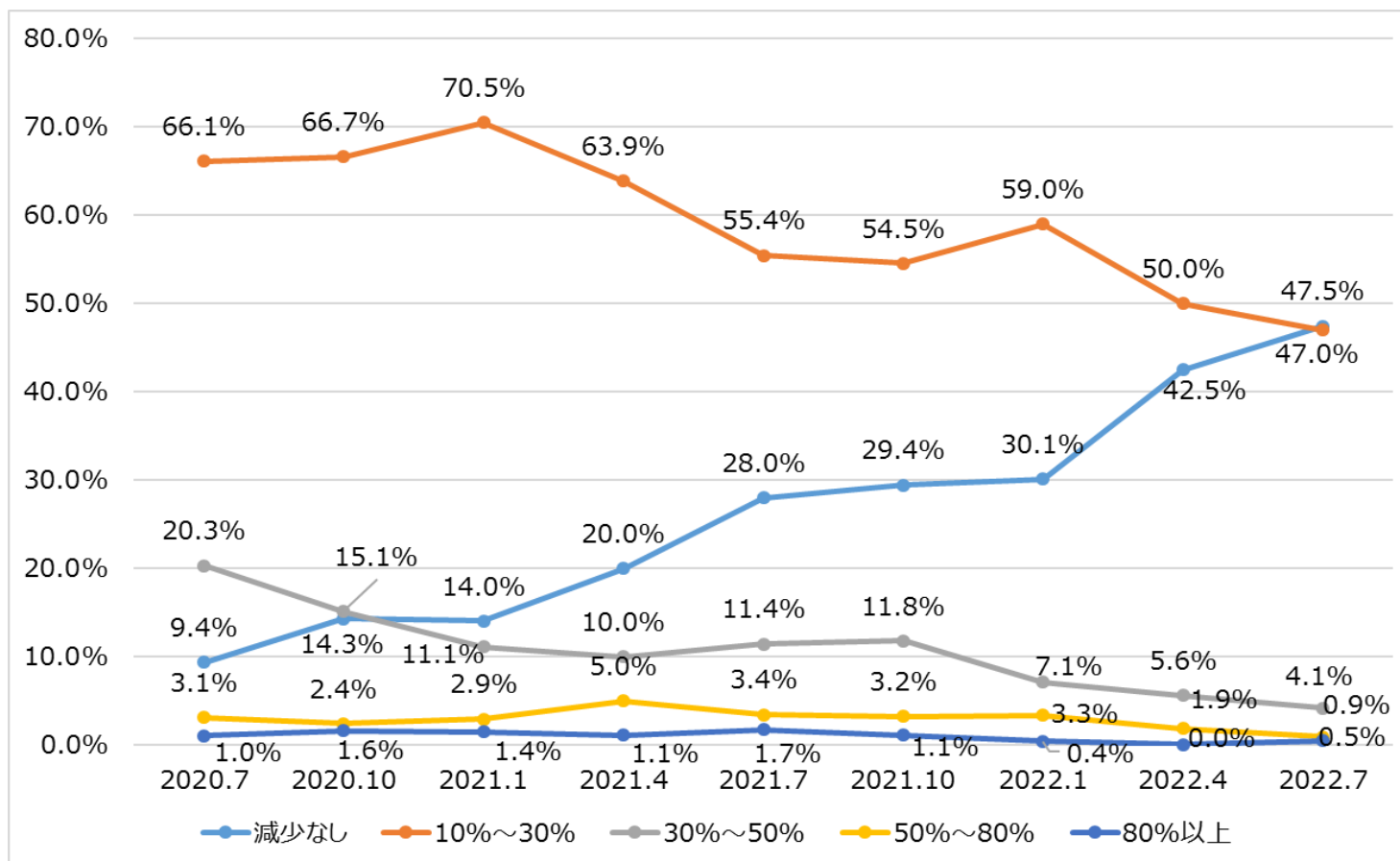
※「既にマイナスの影響がある」、「今後マイナスの影響がある」と回答された方のみ回答



・「仕入れへの影響」があると答えた企業の増加傾向が続いています。仕入れに関してはコロナ禍に併せて足元の地政学リスクや為替要因、資源調達難による価格高騰やサプライチェーンの毀損による半導体等の不足といった影響が複層的に生じている可能性があります。

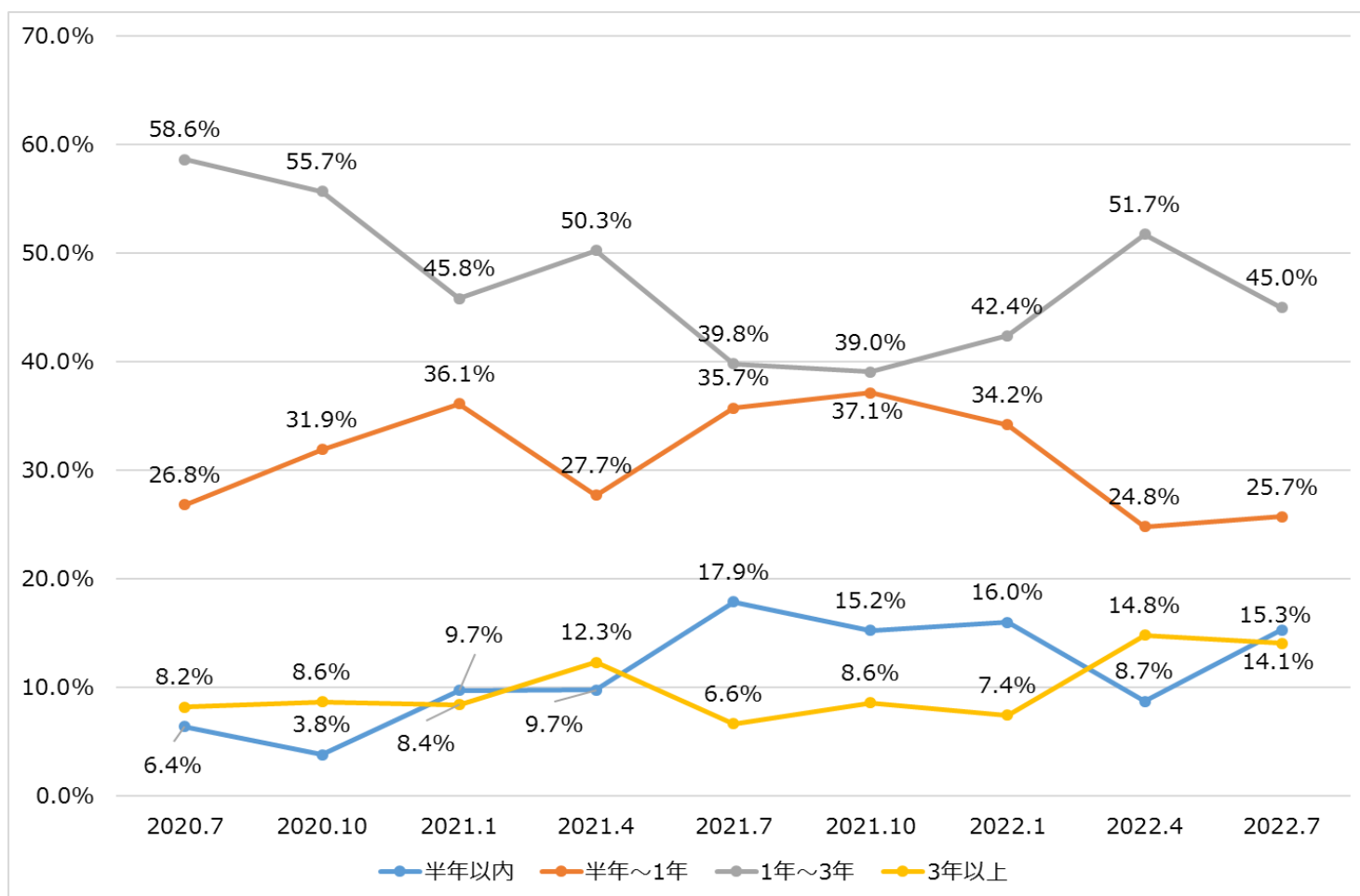
設問： 今後半年間で売上の減少率はどれくらいを想定していますか

※「既にマイナスの影響がある」、「今後マイナスの影響がある」と回答された方のみ回答



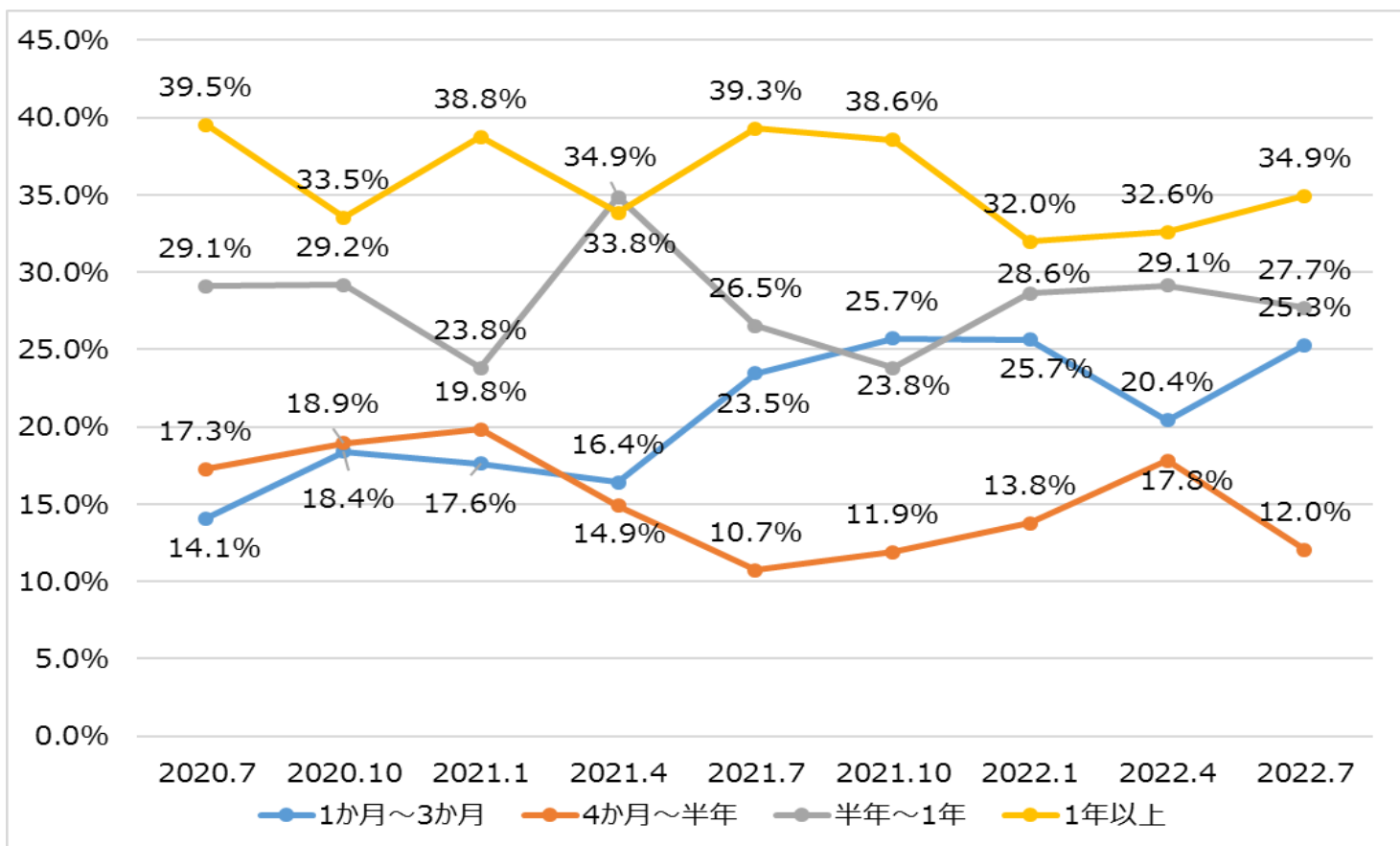
・最も割合の多い減少率「10~30%」と答えた企業が減少基調にあり、逆に「減少なし」とする企業が増加基調で過半数に迫る勢いにあります。今回の調査では両者がほぼ同率で拮抗する結果となりました。売上見通しのマインドは全体には改善基調が続いています。

設問：新型コロナウイルスの影響は今後どれだけの期間続くと考えていますか



・「1年～3年」と答えた企業が最も多く45.0%となっています。ついで多いのが「半年～1年」で25.7%となっています。

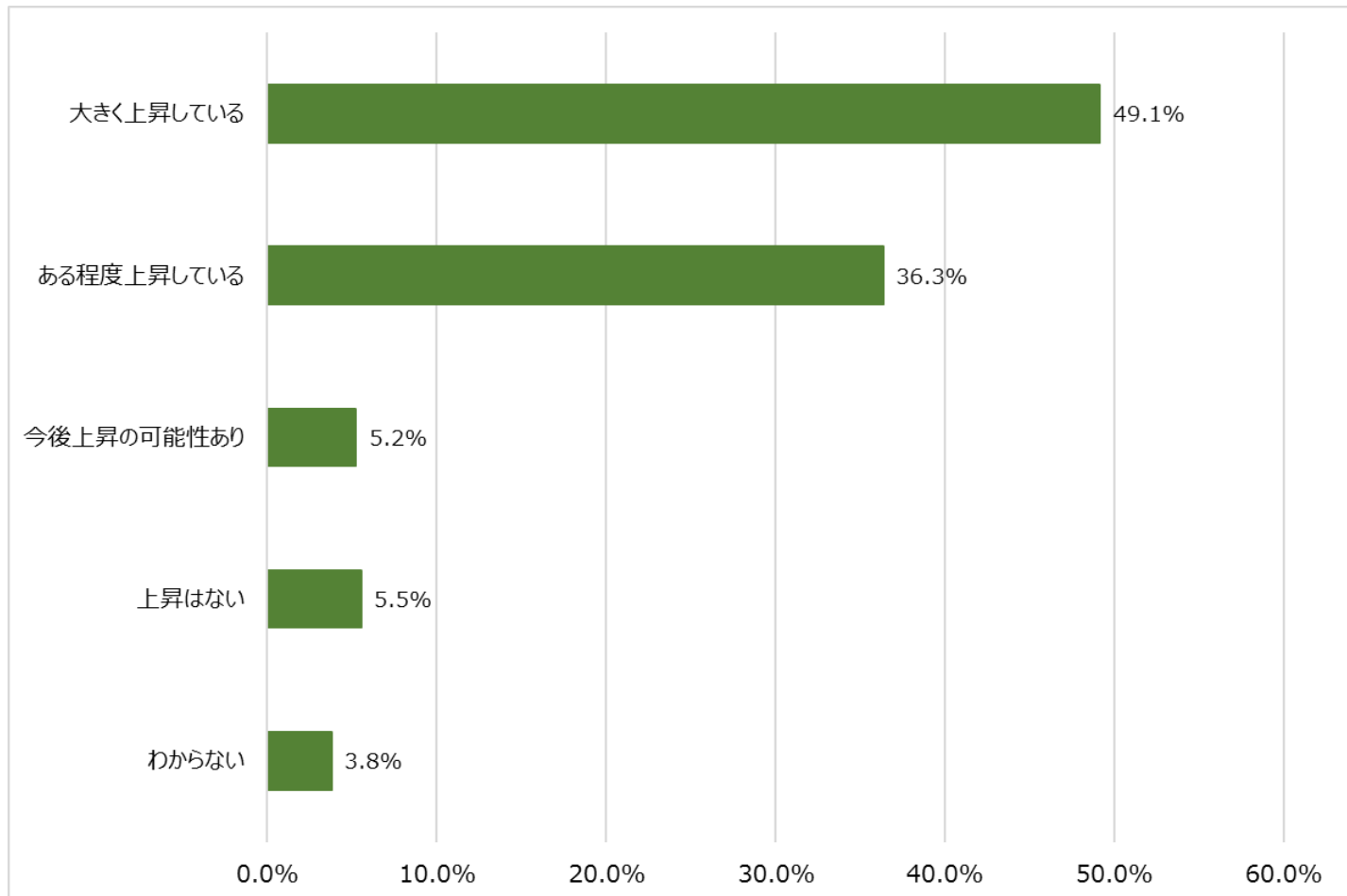
設問：現状のコロナ影響が続く場合の資金猶予期間はどれくらいですか



・「1年以上」と答えた企業が最も多く34.9%となっています。ついで多いのが「半年～1年で」27.7%となっています。「4ヶ月から半年」は減少し「1ヶ月～3ヶ月」が増加しています。

原材料・仕入価格に関するアンケート

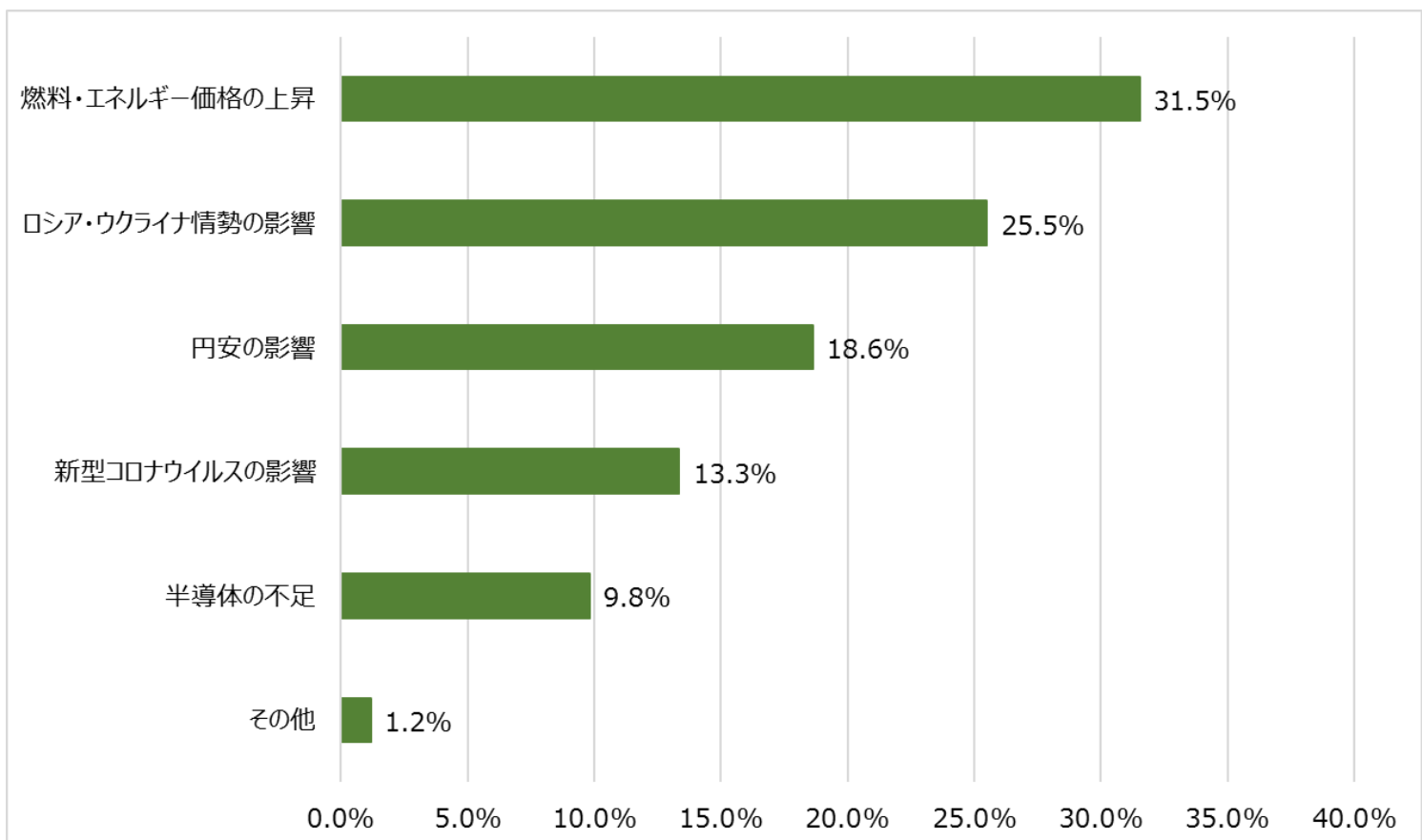
設問：原材料・仕入価格の上昇はありますか？



・「大きく上昇している」が最も多く49.1%となっています。ついで多いのが「ある程度上昇している」で36.3%となっています。原材料・仕入れ価格の上昇が見られます。

設問：原材料・仕入価格が上昇した要因は何ですか（複数回答可）

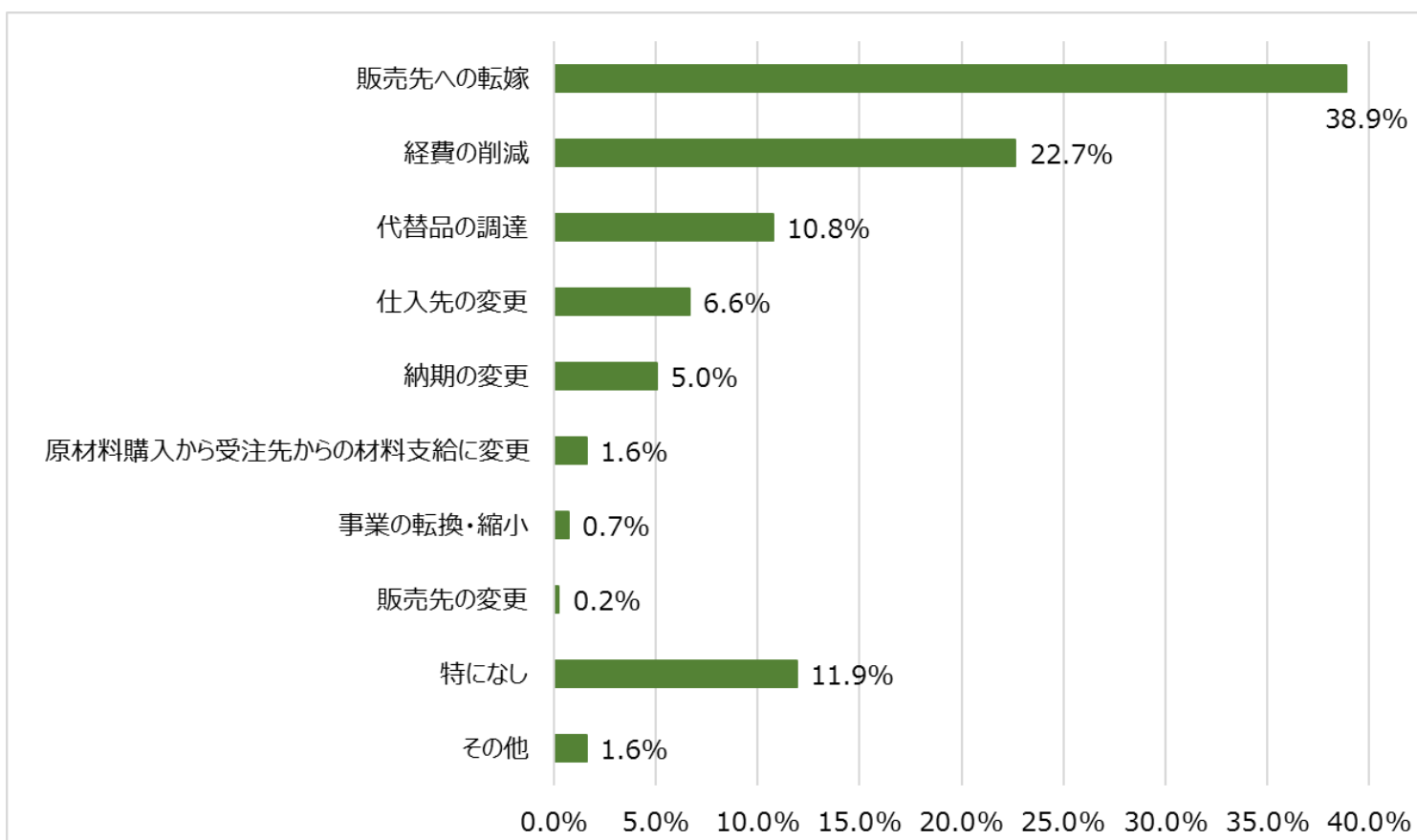
※設問「原材料・仕入価格の上昇はありますか」で「大きく上昇している」「ある程度上昇している」を選択された方のみ回答



・「燃料・エネルギー価格の上昇」が最も多く31.5%となっています。ついで多いのが「ロシア・ウクライナ情勢の影響」で25.5%、「円安の影響」が18.6%となっています。

設問： 原材料・仕入価格上昇の対応策としてどのようなことをしましたか(複数回答可)

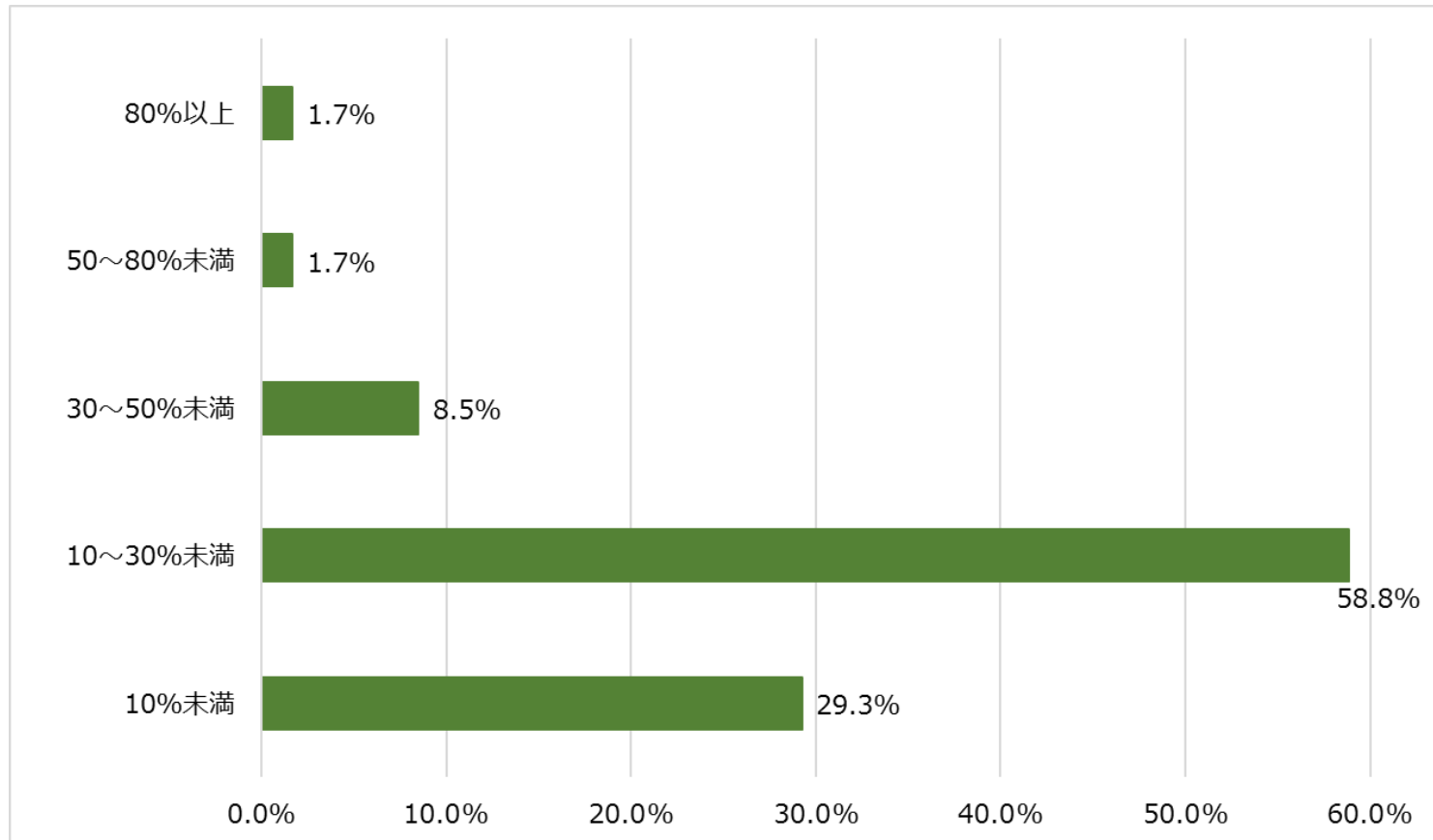
※設問「原材料・仕入価格の上昇はありますか」で「大きく上昇している」「ある程度上昇している」を選択された方のみ回答



・「販売先への転嫁」が最も多く38.9%となっています。ついで多いのが、「経費の削減」で22.7%、「代替品の調達」が10.8%となっています。

設問： 原材料・仕入価格はどれくらい上昇しましたか

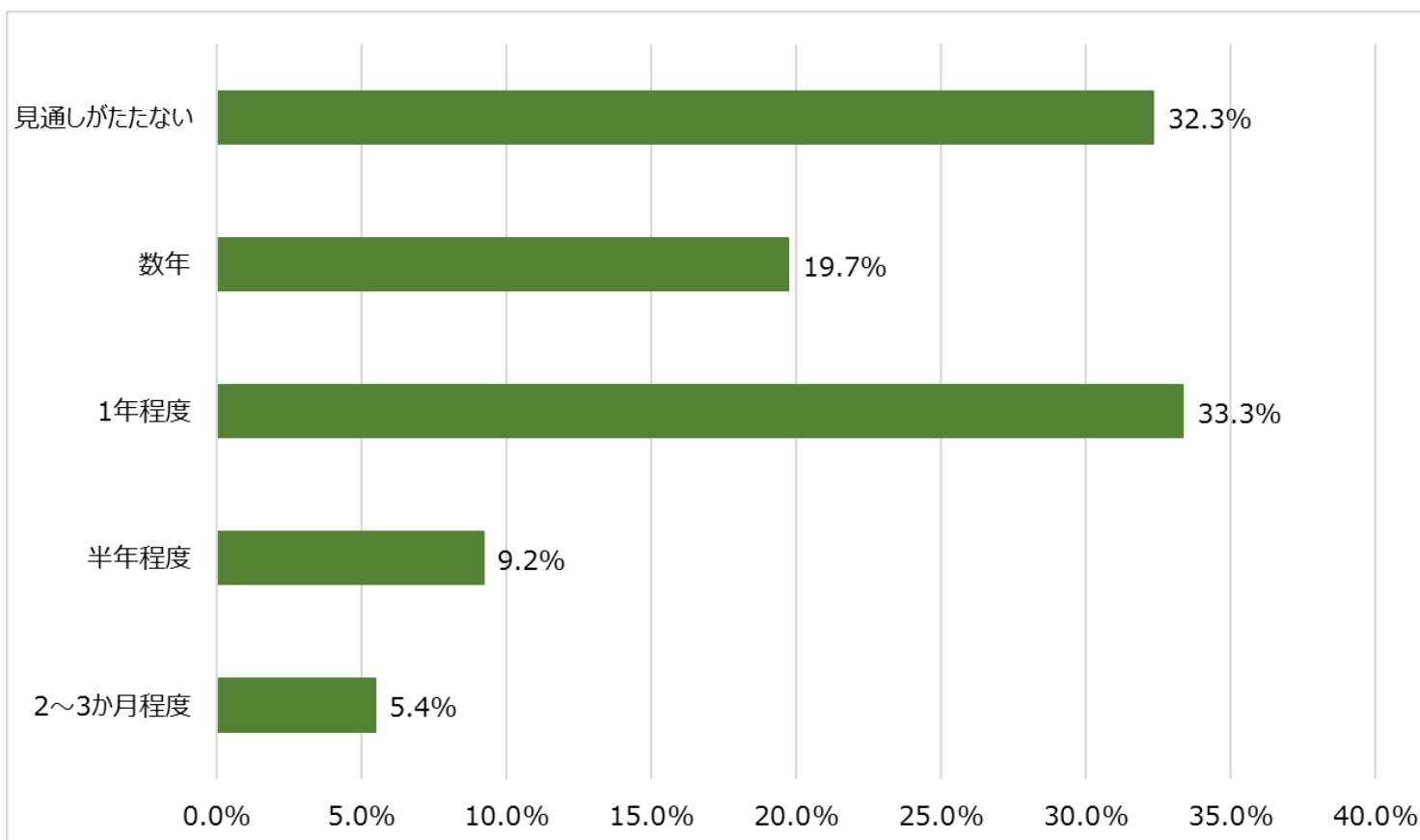
※設問「原材料・仕入価格の上昇はありますか」で「大きく上昇している」「ある程度上昇している」を選択された方のみ回答



・「10～30%未満」が58.8%で最も多く、ついで多いのが「10%未満」で29.3%、「30～50%未満」が企業が8.5%となっています。

設問： 今後、原材料・仕入価格の上昇・高止まり傾向がどのくらい続くと思いますか

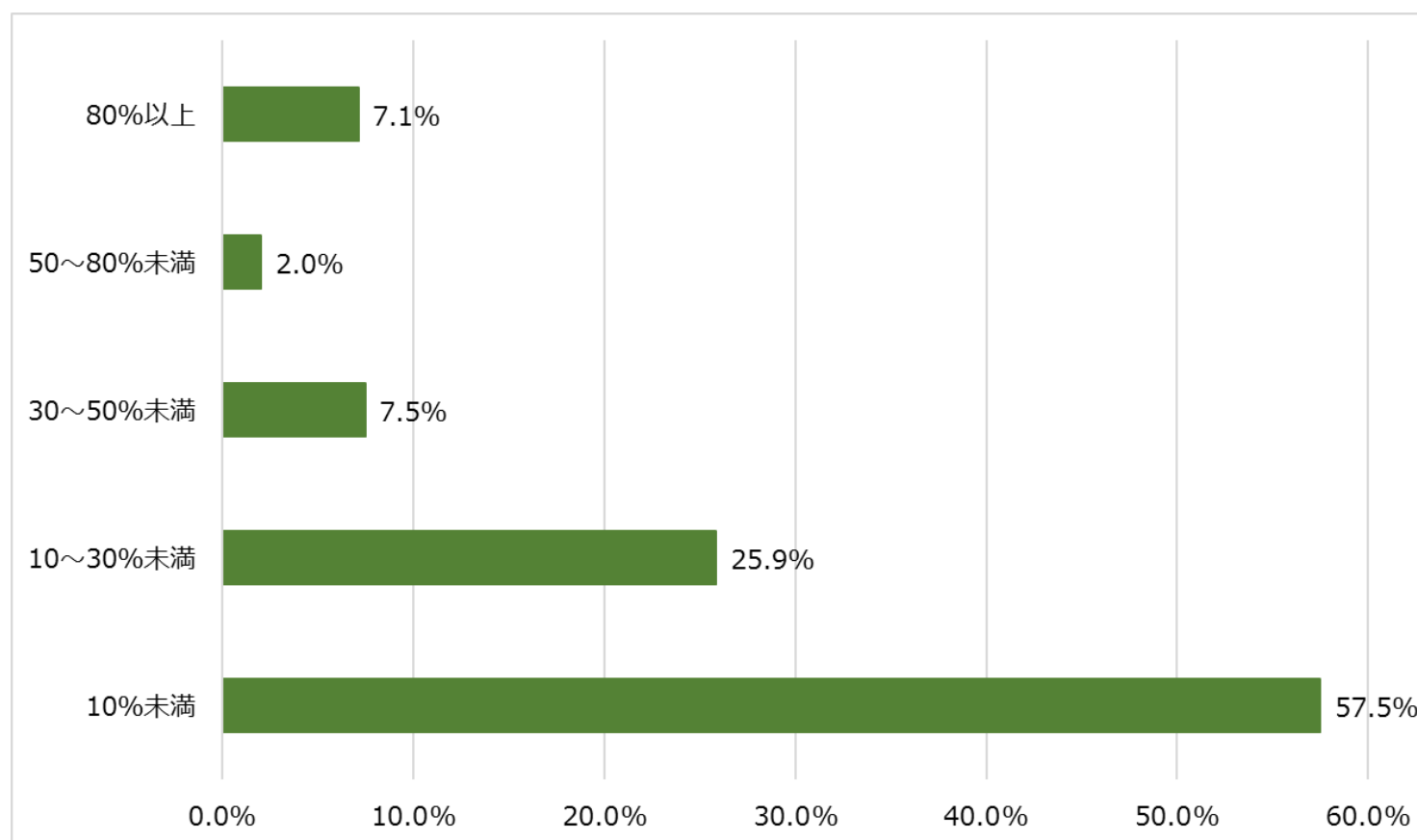
※設問「原材料・仕入価格の上昇はありますか」で「大きく上昇している」「ある程度上昇している」を選択された方のみ回答



・「1年程度」が33.3%と最も多く、ついで多いのが、「見通しがたたない」で32.3%、「数年」が19.7%となっています。1年以上の長期間を見込む企業の割合が比較的多くなっています。

設問： 材料・仕入価格上昇分の何%程度を販売価格に転嫁しましたか

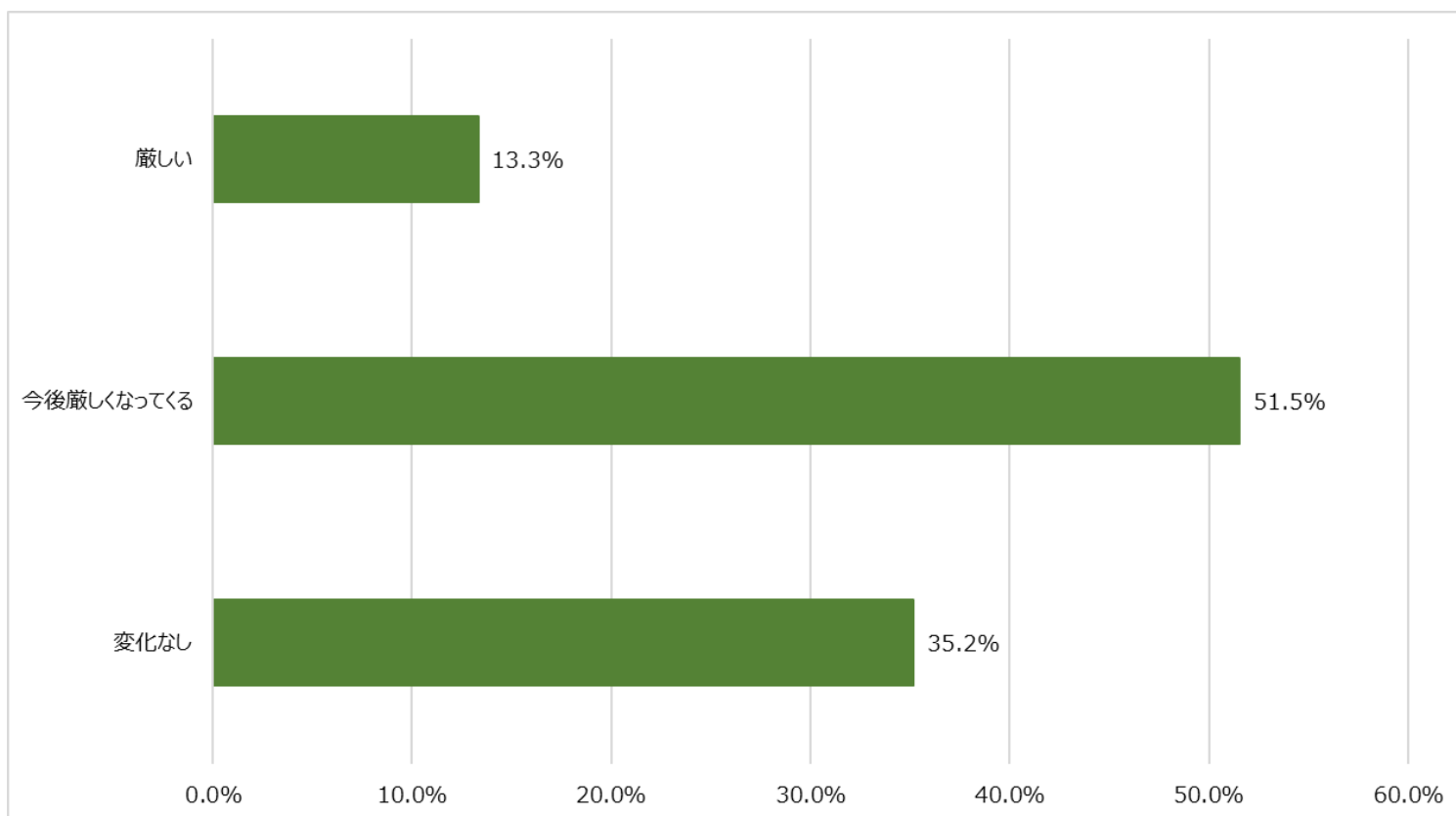
※設問「原材料・仕入価格の上昇はありますか」で「大きく上昇している」「ある程度上昇している」を選択された方のみ回答



・「10%未満」と回答した企業が最も多く57.5%となっています。ついで多いのが「10~30%未満」で25.9%となっています。

設問： 原材料・仕入価格の上昇に対する資金繰りの状況はどうか

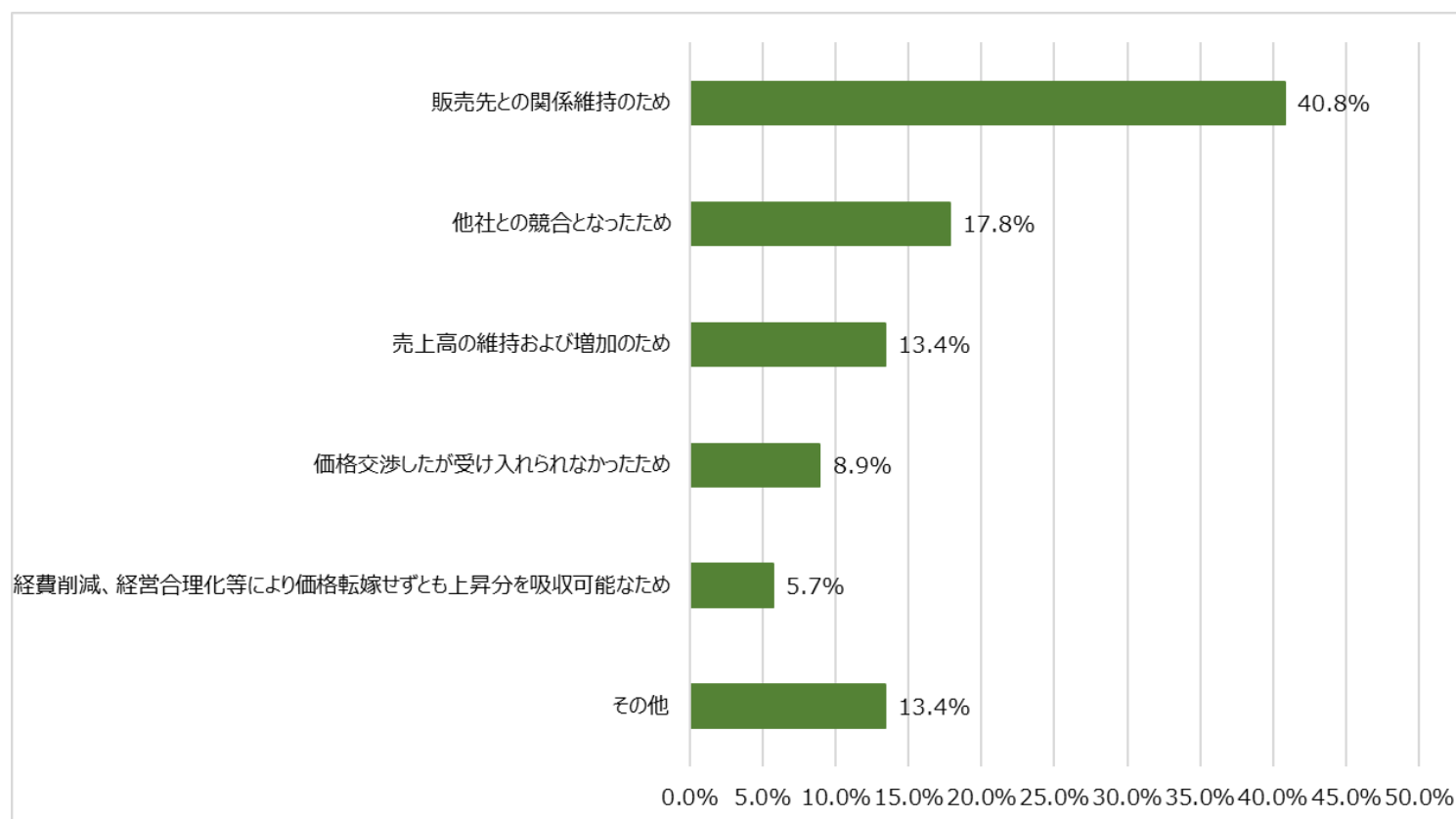
※設問「原材料・仕入価格の上昇はありますか」で「大きく上昇している」「ある程度上昇している」を選択された方のみ回答



・「厳しい」が13.3%、「今後厳しくなってくる」が51.5%となっており、原材料・仕入価格の不透明感が資金繰りに影響を与える状況がうかがえます。

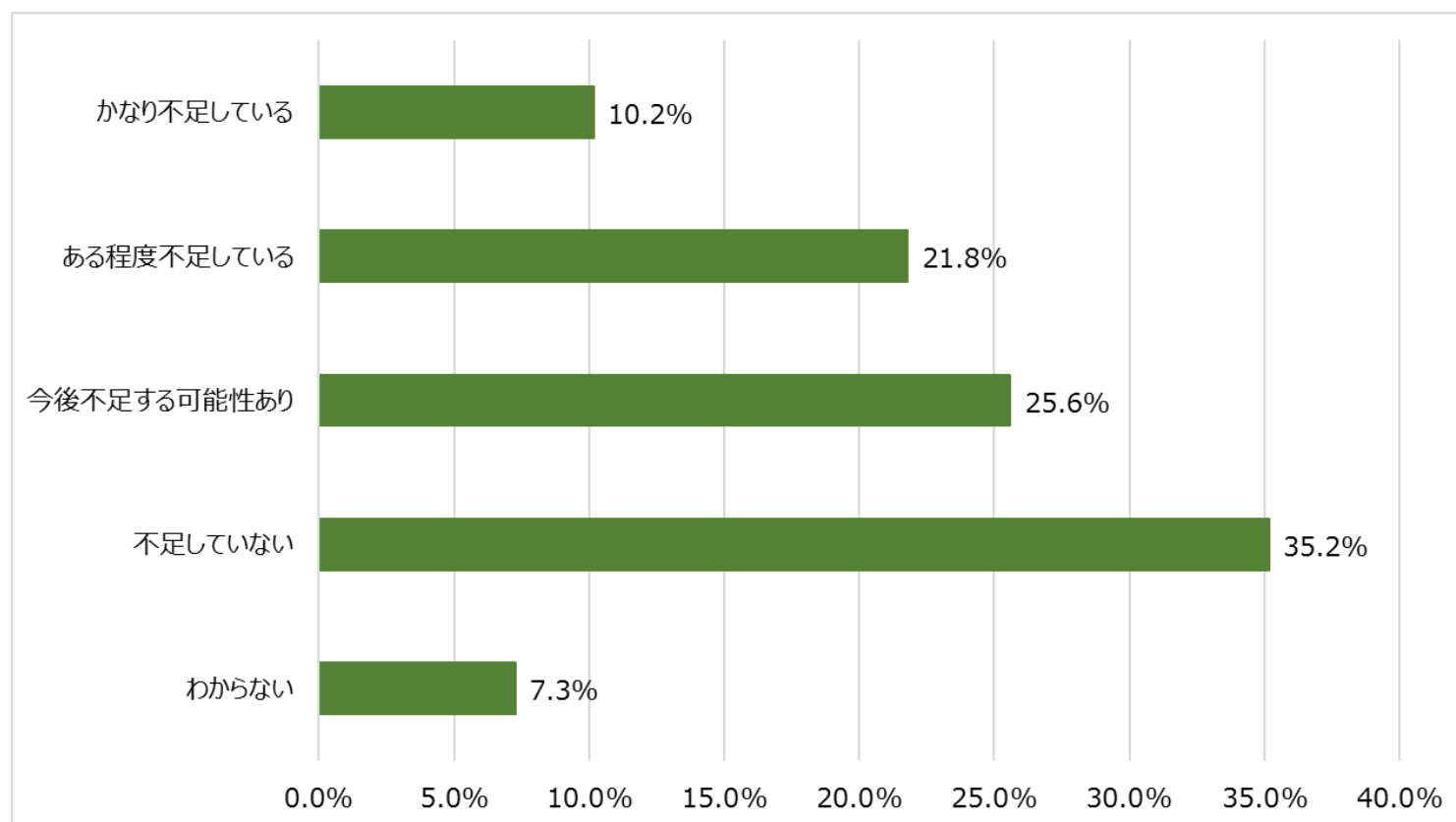
設問： 販売価格へ転嫁しなかった理由は何ですか(複数回答可)

※設問「原材料・仕入価格上昇の対応策としてどのようなことをしましたか」で「販売価格への転嫁」を選択しなかった方のみ回答



・「販売先との関係維持のため」が最も多く40.8%となっています。ついで多いのが「他社との競合となったため」で17.8%となっています。販売先との関係や他者競合等により販売価格の転嫁が容易でないことの実態がうかがえます。

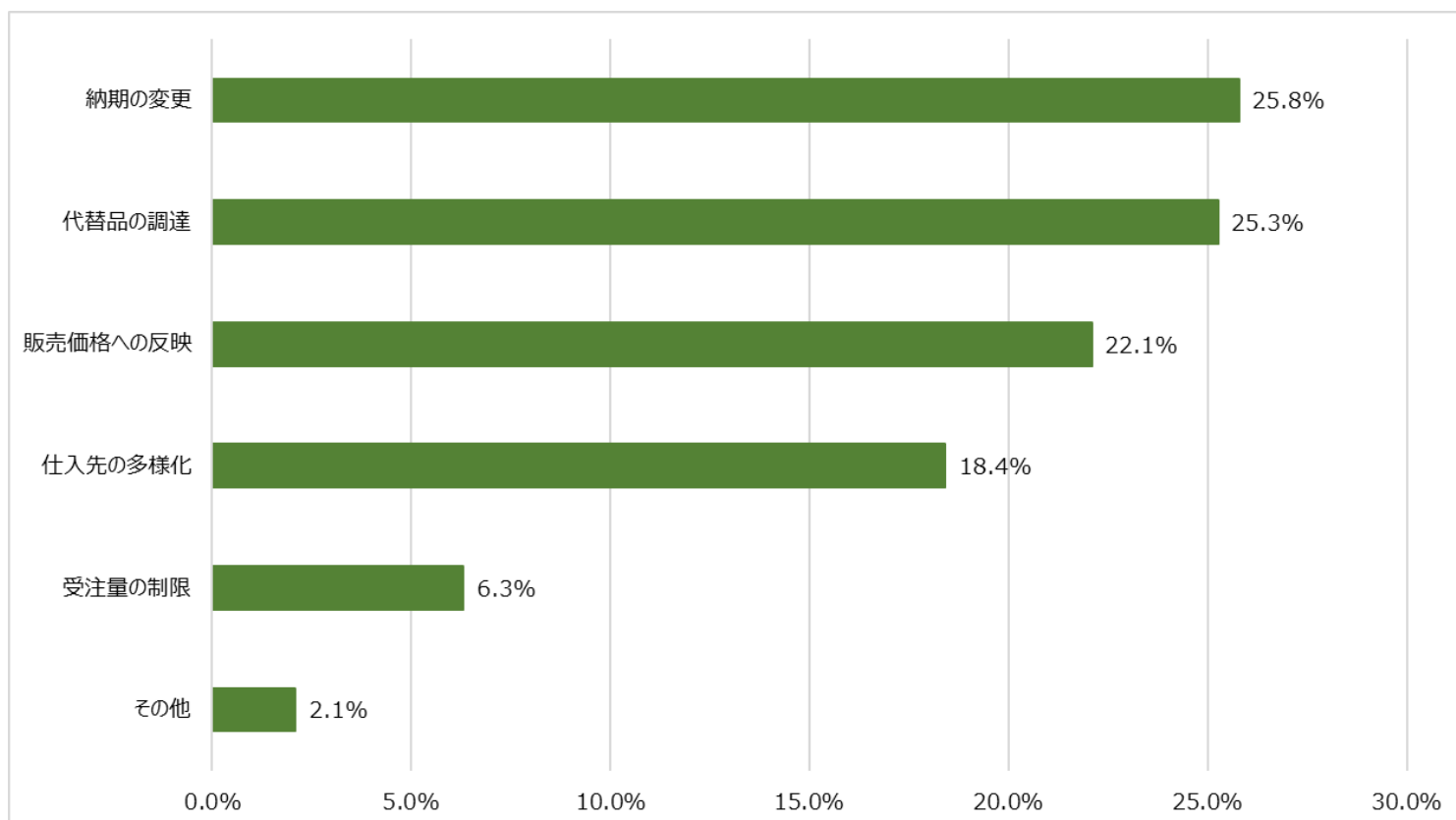
設問： 原材料・仕入商品の不足はありますか



・「不足していない」が最も多く35.2%、ついで多いのが、「今後不足する可能性あり」で25.6%となっています。「かなり不足している」が10.2%「ある程度不足している」21.8%の回答であり、全体の約3割が不足感を感じている状況です。

設問： 原材料・仕入商品不足への主な対応策は何ですか(複数回答可)

※前設問で「かなり不足している」「ある程度不足している」と回答された方のみ回答



・「納期の変更」が最も多く25.8%となっています。ついで多いのが「代替品の調達」で25.3%「販売価格への反映」が22.1%となっています。

中小企業のお悩みに効く!

 富山第一銀行

売上UP

どうすれば…

販路拡大

方法は…

後継者

決められない…

人材育成

進まない…

企業の常備薬として

経営者の皆さま、一人でお悩み抱えていませんか。
地域に根ざしているからこそ力になれる
その思い富山第一銀行に聞かせてください。

 富山第一銀行

<https://www.first-bank.co.jp/business/>